

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4372800914
法人名	医療法人 荒瀬会
事業所名	グループホーム 年輪
訪問調査日	平成 19年 12月 28日
評価確定日	平成 20年 1月 7日
評価機関名	特定非営利法人 NPOくまもと

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月7日

【評価実施概要】

事業所番号	4372800914
法人名	医療法人 荒瀬会
事業所名	グループホーム 年輪
所在地	熊本県上益城郡甲佐町緑町359 (電話)096-234-5151

評価機関名	特定非営利活動法人 NPOくまもと		
所在地	熊本市上通町3番19号402号		
訪問調査日	平成19年12月28日	評価確定日	平成20年1月10日

【情報提供票より】(平成19年12月19日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年6月1日				
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人		
職員数	9人	常勤	8人, 非常勤	1人, 常勤換算	8.8人

(2) 建物概要

建物構造	木造り		
	2階建ての	1階	~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000円	その他の経費(月額)	光熱費 5,000円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200円	昼食	200円
	夕食	300円	おやつ	本人負担 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(12月19日現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名	
要介護1	1名	要介護2	1名			
要介護3	6名	要介護4	0名			
要介護5	1名	要支援2	0名			
年齢	平均	88歳	最低	78歳	最高	95歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	荒瀬病院、なるせ歯科、希望ヶ丘病院
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

街中を流れる川には鯉が泳ぎ、石畳に沿って昔ながらの商店も多く、風情のある環境の町中にあるグループホームは、隣接の病院との連携体制も整っており、入居者や家族にとって医療面で安心できるホームとなっている。職員は、高齢者との同居がほとんどで、入居者とのコミュニケーションも良く優しい気持ちで接している。入居者は、平均年齢が高いにも関わらず介護度が低いのは、長い廊下がりハビリ訓練になり筋力低下防止や身体機能の維持に繋がっているようである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	理念に関しては家族等訪問者にも説明をし、職員間では理念に添ったケアができるよう常に確認し合っている。入浴に関しては入居者の希望に応じた入浴時間に変更され、理美容院の利用も家族の協力を得ることが可能になっている。買い物時の支払いは職員の見守り支援によって、入居者自身の支払いが来ている。前回の評価を真摯に受け止め、改善可能な項目から積極的に取り組んでいるのが窺える。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は自己評価、外部評価の意義・目的を理解しており、改善課題は職員と話し合い、サービスの向上に活かすよう具体的な計画を検討している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議ではグループホームの意義や認知症についての説明の他、高齢者に関わりが深い、ノーマリゼーション、口腔ケア、看取りについての勉強会を行っている。毎回ホームの現状報告も行っている。委員の人は、地域の中で活動している団体・職種それに地区の代表者等、幅を広げる取り組みが望まれる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎月の支払い時や面会時に入居者の状況を報告し、家族の意見が出やすい雰囲気づくりに努めているが、意見・要望までは出ていないのが現状である。今後は家族会の設立支援やホーム便りの内容等を検討し、運営面やサービスの質の向上に反映できる連携協力の体制づくりを期待したい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域推進会議で話題になった地域行事への参加や、ホーム近隣の商店やスーパーへの買い物、散歩を兼ねたウィンドーショッピング等で馴染みの関係作りや交流を図るよう支援している。スーパーの買い物用カートを借りて荷物を持ち帰るなど、地域の一員としての理解が得られているのが窺える。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立当初、職員間で話し合って決めた理念を玄関等に掲示し共有している。		地域密着型グループホームとしての理念について、職員間や家族・入居者を交えての話し合いを期待します。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝のミーティング時に唱和することもあり、理念の実践に向けたケアに取り組んでいる。		
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町の中心部の住宅街にホームがあり、買い物時や散歩の時、日常茶飯事のおつき合いが出来ている。地域のイベントや役所主催の集会にも参加し、またボランティアの訪問も受け入れており、地域の方と交流できるよう支援している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価及び自己評価の意義は職員のミーティングなどを通して職員は理解を深めている。結果は職員で話し合い改善すべきところは真摯に受け止め具体案を見いだすようにしている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度の開催でホームの状況報告が主な議題としている。その他、認知症ケアの具体例としての看取り、口腔ケア等の話しをし、意見交換も行っている。		地域の多様な職種・団体等からの委員人選を検討下さい。

グループホーム 年輪

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(EPI)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町の職員とは認知症の勉強会を行ったり、情報を交換しながらサービスの向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の支払い来訪時には、家族に入居者の健康状態や暮らしぶりを伝えるとともに、変化があった時は随時電話連絡等を行なっている。金銭管理についても定期的な報告を行なっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の訪問時に声かけをし、何でも言えるような雰囲気づくりを心がけているが、意見までは出てこない。		家族会の設立も視野に入れ、家族の意見が出やすいような仕組み作りの支援を期待します。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者や家族との信頼関係を重視した異動や離職時の対応を行っている。離職があった場合は馴染みの職員が声かけ等に配慮し入居者の不安解消に繋げている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の研修会や福祉関係機関が実施する研修に参加し、その研修をホーム内での勉強会や報告会を行うことで職員の質を高めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	上益城郡や町内のグループホームの勉強会や交流会等に管理者・職員も出席し、情報交換等に参加しサービスの向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(E)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>管理者は入居者の以前の施設等に出向き情報収集を行い、職員間で共有している。家族に見学に来てもらったり、職員は言葉かけに配慮しながら馴染んでもらうよう支援している。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>入居者の能力を把握する事で、日常生活の中で潜在能力を発揮できるよう支援している。また日常の会話から入居者の悩み等を理解し、共に支えあう関係づくりに留意している。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>家族からの情報を得ると共にや日々の関わりの中から本人の希望や意向を把握するよう努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>ADLの向上とその人らしく生活できることを目標に、家族の意向を反映させながら職員の意見も取り入れて、計画作成担当者がプランを作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的なモニタリングの実施と半年に一度の見直しを行っている。入居者に変化が生じた時は計画の見直しを行い現状に即したプランを作成している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(EPI)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の状況に応じて通院同行を行っている。また入居者の希望や状況に応じて、デイサービスを利用するなど柔軟な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はほとんどの入居者が協力病院となっており、受診や通院は家族の状況により柔軟に対応している。専門科の受診には家族の協力を求めている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に終末期に向けた方針を説明し、状況次第では家族、医師、職員と話し合いをしながら取り組むようにしている。		終末期に向けたケアや確認書等についても更に職員研修の機会を作り研鑽を積まれることを期待します。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりを尊重した言葉かけを行い、プライバシーに配慮した支援が行われているかどうかミーティングで確認し合っている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の起床時間に応じて一人ひとりのペースを尊重した支援を行っている。その日の入居者の希望にそって、買い物や散歩の支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(E)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みを把握したうえで栄養士が献立をたてている。入居者の能力に応じ、買い物から簡単な下ごしらえ、後片づけ等を職員と一緒にやっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望に応じた入浴支援を行い、入浴拒否の方には言葉かけに配慮した支援を行い、清潔維持に努めている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、茶碗拭き、掃除、等入居者の能力に応じて言葉かけを行い、発揮できる場面づくりの支援を行っている。また近所のスーパーへの買い物や外食の支援も行い、気晴らしができるような取り組みも行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望に合わせて、買い物、散歩、ドライブ等の外出支援を行っている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	グループホームの目元が車の通りが多いため門扉は閉めているが、職員は鍵をかけることの弊害を理解しており日中は玄関の鍵はかけない支援を行なっている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年二回、入居者も参加した避難訓練を実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士がカロリー計算した献立をたて、水分量等の摂取量は日々の記録に記入し、職員間で共有している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	程よい広さの食堂とキッチン、食事の準備の音や味見等をする事で五感に働きかけている。廊下には座りやすい畳のベンチもあり、ゆっくりくつろいで外を眺め事も出来居心地よく過ごすことができる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の馴染みの箆笥や椅子、ソファ、家族の写真等の持ち込みがあり、入居者一人ひとりの生活に合わせた居室となっている。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 年輪
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本県上益城郡甲佐町緑町359番地
記入者名 (管理者)	小屋敷 誠子
記入日	平成 19 年 11 月 22 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスについて職員間で話し合い、地域の行事等へ積極的に参加したり、交流の場を持ち今まで以上に地域との結びつきの強化や関係の継続を支援できるサービスを理念としている		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝のミーティング時は日々のケアサービスについて理念に基づき実施している。話し合いを行い再確認している		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族の来訪時には地域への行事参加等を説明している。地域の方々がホーム来訪時ホームの方針や理念について話し、理解得ている		
2. 地域との支えあい				
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	町中といることもあり、近所には商店やスーパーが立ち並んでいる。散歩の途中にお茶をご馳走になったり会話を楽しんだりしている。隣と隣接しているため奇声など気になることもあり常に声掛けをし、不備がないか確認している		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	敬老会や初市、町の文化祭等に参加し、地域の人達との交流を深め理解を得ている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ミーティング等においてスタッフ間で認知症について話し合いを行い地域の高齢者などから認知症についての質問や疑問を持たれている時などは積極的に説明している		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、全員で取り組みミーティング等で目的、意義を伝えている。評価結果は全員に報告し改善に向けて具体案を検討している		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設内や地域への活動を中心に報告し、取り組みについても話し合い意見やアドバイスを頂いている		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の勉強会等参加したり、不明点が発生した場合、町の福祉課を訪ねたり、電話等にて報告し、情報を共有し質の向上に取り組んでいる		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度の理解を深めるため、研修会に参加し、学ぶ機会を多く取っている		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会の中での話し合いや研修等に参加し、虐待防止についての知識を身につけ、一人一人が理解をもてるよう取り組んでいる。又、利用者の方の観察を職員全員で行う		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には運営規定に添ってケアやサービスについて解り易く説明し同意をもらっている。また不安や疑問等がある場合については来訪時や電話にて対応している</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の方の言葉、表情から察し、態度等で本人の訴えを理解している。又、事務長等、利用者の方との対話等も実施して意見の確認をしている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎日スタッフより利用者の方の暮らしぶり、状態報告を行っている。変化時は来苑、電話等にて報告している。金銭管理については来訪時に出納帳を確認していただき、サインをいただいている。職員の移動時にはその都度説明しスタッフを紹介している</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族には来訪時等常に問いかけ何でも言える雰囲気作りを心がけている。又、二ヶ月に一回運営推進委員会を開催時、家族代表や町の福祉の代表も参加していただき意見交換を行い問題として上げ運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>意見、要望ある時は、その都度理事長や事務長へ報告を行い話し合いを実施している</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者が心配なく安心して生活が送れるように職員間で話し合いを実施して勤務を調整している。職員も快く対応している。また問題点があるときは話し合いにて解決できるように努めている</p>		<p>介護従業者のプラスアルファの増員(配置基準は満たしている)</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>グループホームは利用者、家族の方との信頼関係を築くことが重要なため移動は実施していない。職員離職時には顔なじみの職員が多く声掛け等実施し、不安の解消に努力している</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会等には参加している(高齢者虐待、認知症介護、他施設との連絡協議会等の参加)		
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各ブロックで連絡会があり、情報交換、研修会を定期的に行いサービスの質の向上に努めている。又、各支部のコミュニケーションを定期的に行っている		
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	スタッフ間のコミュニケーションの手段として会話を持つ時間を取っている。(管理者、事務長を除き職員旅行、忘年会等実施)		
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	利用者の方に対する職員の考え方や思いを聞き仕事への関心を持つよう取り組み、個々のモチベーションが上がるように指導している。また人事考課を行い職員に応じたポジションを用意している		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている			
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている			

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている			
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常的な会話を多く取り入れることにより本人の思いを知り共感できる関係を作り、その人を中心としたケア或いは尊厳の保持に職員全体で取り組んでいる		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者が職員と生活している中での生き甲斐や思いを把握して家族へ細かく伝えることで協力関係を築き、家族内でのコミュニケーションをとりやすくしている		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人の状況等を伝えるため、職員が電話をしたり、頻回に来訪していただき家族との情報の共有に努めたいが、一部の方についてはなかなか実施できない		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	買い物や外出等で知り合いや親戚、友人への声掛け等にてホームへ来訪していただいている		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	食事やレクリエーションなどには職員も中に入り会話を楽しくできるような雰囲気作りと、グループでの対話の実施を行っている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	現在まで退所された方はゼロ		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で言動、しぐさ等から思いや意見等を察しまた、家族関係者から情報を得ている		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供書や家族、知人等の訪問時、又本人自身の語り等から情報収集し、把握に努めている		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人一人の生活リズムを理解し、日々の関わりの中で気づきを感じ取り把握している		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の関わりの中で思いや意見等を聞きADLの向上と共に、自分らしく生活が出来るよう介護計画を作成している		単調な計画にならないようカンファレンス等で意見を出し合い本人にとってより良いケア(その人を中心としたケア)を提供していきたい
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の方に変化等あった場合、計画の変更は実施している		状態に変化が見られたら期間前でも見直しを確実に行っていきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに基づき日々の生活状態面等、常に個々に観察し記録を行っている		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域で安心して暮らせるように地区の区長さんや或いは町の福祉関係の方々との意見交換の場を持てるよう努力している		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者や家族の要望があればすぐ実行できる体制は整えているが現在は実施していない		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括センターとの関わりはグループホームはないが町の福祉課との関わりは持っている		これから運営推進委員会等において、地域包括センターの方にも参加を要請し、協力関係を築いていきたい
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力病院により、殆どの方が係りつけ医となっている。受診や通院はご家族の希望に応じ対応している。基本的には家族同行の受診となっているが不可能な時には職員代行している。訪問診察にきてもらうケースもあり、病院との関係を密にしている。又協力病院によりバイタルを毎日管理してもらっている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	開設時より協力医療機関(希望ヶ丘病院)の診察にて診察情報や診療方針、認知症についての助言や指示をもらっている		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている			
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力病院が隣接のため入院時には毎日情報確認他、面会に行き声掛け安心されるよう努めている。又、施設内での情報の提供を行っている		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	情報の共有を密にし、現在の状況を伝えている		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	家族の方の希望によりホームないで終末を迎えた方もいらっしゃいます。家族に頻繁に面会をしていただき、又協力病院との連絡も密に行い、チームケアに取り組んできました。今後も利用者の変化等については勉強会等を通じて準備しています		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ケア関係者の話し合いの場を持ち、支援状況等について情報提供を行い、その後も連携していくように努めている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>日々の関わり方をミーティングの折に確認しあい利用者の方の誇りやプライバシーを損ねない対応が出来ているか確認、尊厳の保持に努めている</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>日常生活の中で利用者に合わせて声掛けを行い、意思表示が困難な方は行動、表情の観察をしながらレベルに合わせた決定の場面を作り施設内での自立支援に努めている</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人一人の起床時間に起きていただき朝食をとってもらっている。散歩希望や買い物等に職員付き添いにて出掛けるように本人の主張を尊重している</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>整容(ブラッシング等)自立及び支援にて行っている。又衣類等も自分の好みに着用していただいている。理美容等については行きつけの店を利用していただいている。それ以外の方は出張理容を利用している</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>利用者の方と食事の準備、片付けを行い食事の献立や食材の会話をしながら楽しみながら料理をし、職員全員で楽しい食事をしている</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>一人一人の嗜好品を理解し、誕生会や行事等で好まれるものを楽しく食べていただいている。買い物と一緒に出掛け好みの食べ物を選んでもらっている</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	自然な排泄が出来るように支援しているが便秘がちの人が多し。よって水分補給と運動等を実施している(ヨーグルト、牛乳等を飲食)		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者のその日の希望を確認し、入っていただいている		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	日中の体調、表情を観察し、無理なく活動を促し生活のリズムを整え夜間はゆっくり休んでいたたけるよう努めている。寝付けない時は声掛けし、寄り添ってお茶を飲みながら話し、自然に寝入られるよう環境を整えている		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	茶碗拭き、洗濯物たたみなど、ひとりひとりに合った役割を見つけ力が発揮できる環境作りをしている。また外出や地域の行事への参加など心身活性の支援も行っている		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の方には金銭管理が出来られる方もいらっしゃるため財布を持たれ管理されている。(二千元から三千元)その方は職員と同行にておやつ等好みの物を買われている。その他の方は職員にて管理している		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人一人その日の希望に添って屋外へ出たり、利用者の方の自宅の周辺などドライブに行ったりしているが、希望に添っての連れ出しは難しいところである		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	四季に渡り年に4回程度、利用者の希望により花見や紅葉見学、或いは人が多く集まる場所等行っているが、家族の支援は得られない		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の電話要求に対しては家族の支障のない時間に電話するようにしている。手紙についてもご家族にお願いし出している		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	時間を決めてAM8:30～PM9:00まではオープンにして誰でも来苑できるようにしている		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	現場の状況等に応じて利用者の方に危険が及ぶ場合は家族の方に了解を得ての身体拘束はある		身体拘束ゼロを目指しています
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	不穏等徘徊される利用者の方が多く通りにも面しているために職員が一人になる時間帯、或いは夕方等は早めに施錠している		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常にひとりひとりに目を配り所在や様子を把握することで安全に配慮している		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	利用者の理解に合わせ、職員間で状態に応じた対応を話し合いをしながら実施している		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々の利用者の状態を理解し、職員間の申し送り等を密に行いひとりひとりの事故防止に努めている。事故発生時は事故報告書に記録し、予防対策を行い町や家族へ報告行っている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	利用者の方に緊急事態が発生した場合には全て管理者や町、家族と話し合いをしている。又常に協力病院に連絡をする等訓練を実施している		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災無線による緊急連絡、火災訓練時の初期消火、避難訓練、通報訓練等行い災害時の対応に心掛けている		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	利用者の意思を尊重し、その上で起こりうるリスクは家族と話し合いを行い説明し、納得していただいている。スタッフは利用者が安全に生活していただけるよう環境作りに配慮している		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	ひとりひとりの体調管理を把握し、異変時は職員間の情報交換を行い必要に応じ病院受診を行っている		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬等の情報ファイルを使用、職員全員が目的、用法、用量、服作用等を確認できるようにしている。服薬は全員手渡し、服薬確認をしている。変化がみられたら、詳細に記録し、必要に応じ主治医に報告している		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	日常生活の中で体操や買い物、散歩と身体を動かし、水分補給に努め食材にも心掛け排便コントロールを心掛けている		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔ケアの声掛けや利用者の力に応じた介助を行ない必ず実施するようにしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士のメニューにて料理を作成し食していただいている。毎食の摂取量を記録し、スタッフ間で情報の共有に努めている		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関しては早期発見、早期対応に努めている。また、利用者及び家族に同意いたたき職員共にインフルエンザ予防接種受けている。ノロウイルス対策として、手洗い徹底し、ペーパータオルを使用する等予防も徹底している		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板やふきん等は夜勤者が毎晩漂白し清潔を心掛けている。冷蔵庫も点検、清掃し食材の残りは鮮度を確認し冷凍したり、処分したりしている。調理器具、台所、水周り清掃し衛生に気をつけている。食材は毎回買い物に出掛けている。冷蔵庫や冷凍庫の食材の残りの点検を頻繁に行っている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関に季節の花、飾り物などを置いて明るい雰囲気作りに心掛けている。家族、近隣の方々に親しみや、気軽に立ち寄っていただける工夫も行っている		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の方と共に季節感のある飾りを多く取り入れ間接照明(ブラケット)等でゆっくりくつろげる空間作りを心掛けている		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のたたみに座られて利用者ひとりひとりがゆっくり出来るように作っている。窓から裏庭が見え、ゆっくりくつろげるスペースでもある		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の馴染みのものを配置し、住み心地の良い部屋作りに努めている		利用者の個性を活かし、好まれる品物等をお店などにて選んでいただき良い部屋作りを目指していきたい
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除や排泄時等換気に努め季節に応じ心地よい温度に設定し利用者の方の健康状態を保っている。又、明るさ等については落ち着いた明るさに配慮している		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	住居環境が適しているかミーティング等で話し合い、状況に応じ提案していきながら改善している		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人の残存機能に応じた手伝い等声掛けし、行っている		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	裏庭に花を植えたり畑を作ったりして利用者の出来る方が楽しみながら活動できるように支援している		

サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

日々の関わりの中で利用者とスタッフという関係ではなく、みんなが家族のような関係でいられるようなケアを目指し頑張っています。また、地域の行事には積極的に参加し、近隣の方々との触れ合いを大切にしています。医療機関との連携がしっかりとれているため、体調管理も充分に行うことが出来ています。又、食事についても管理栄養士のメニューを採用し、食の安全、栄養のバランス等には特に注意をし、安全な入浴、清潔の保持等に努めています